

“人材不足解決のために動物病院が取り組むべきこと”

動物病院の成長には、獣医師と動物看護師のマンパワーが不可欠ですが、人材不足の深刻化が増していることが多くの院長の悩みの種になっています。

2023年、愛玩動物看護師の国家試験が実施されたことを契機として、動物看護師の人材不足はどうなっていくのか。関連団体がこの国家資格化に込めた思いと動物病院院長への「どうすれば良くなるのか」の提言をお伺いしました。



一般社団法人 **日本動物看護職協会**

会長 **横田淳子氏**
(有限会社横田動物病院)

一度辞めた人を復職させる仕組みを作っていくことが必要な時に来ている

国資取得で働き方に色々な選択肢が持てるようになる

西川：国家試験が終わり、動物看護師は新たな時代に入りました。動物病院業界はこれまでずっと成長を続けてきた、極めて稀な業界ですが、好況であるがゆえに、年々、人材不足が深刻化してきています。女性獣医師も同じですが、女性動物看護師にとっては働きづらい労働環境であることが「入ってもすぐに辞めてしまう」という状況を生み出していると思います。

そこで愛玩動物看護師が国家資格になったことで、関係者は「国家資格を取ったからには長く勤務してほしい」と強く思っていると思います。そのためには、私は動物病院側が変わらねばならないと考えています。

まずは動物看護師の現況についてお伺いします。

横田会長(以下、横田)：動物看護師は女性が多く、結婚・出産、子育て、そして介護の負担を原因とする退職で、勤務年数が短いことが課題になっています。

今回の国家資格化の目的の1つも、この課題の改善にあります。

これまでの動物看護師と言え、この動物病院では勤務できても、転職する際に他の病院で勤められるだけの能力・スキルが保証されていない状況でした。今回、愛玩動物看護師として国家資格化されることによって、この能力・スキルは国によって担保されるので、転職もよりしやすくなって動物看護師の勤務年数を伸ばすことに繋がっていくものと考えています。

西川：動物看護師の働き方として、どのような形になるのか良いとお考えですか。

横田：国家資格を取るによって、本人が働き方に色々な選択肢を持てるようになることです。

例えば、①子育てが終わったらまた戻れるとか、②本人のライフスタイルに合わせた働き方ができるとか。

やはり、動物病院はヒトありきの職業ですから、獣医師であれ、動物看護師・スタッフであれ、働き方に配慮できる院長の居る動物病院がヒトを集められて発展していくのではないかと見えています。

西川：仰る通りです。私も国家資格化をきっかけとして、勤務医、動物看護師・スタッフの働き方の多様化を院長が認めるようになっていくことが人材難の解決には大事になってくるものと考えています。

しかしながら、そうはなっていない動物病院が多いのがこの業界の現状です。

院長の意識を変えることが大事で、変えるためには多くの成功事例を紹介していくことが必要と考えています。

「労働環境等を良くしていこう」という点で動物病院間の競争が起きるようになって来ることを期待して、これからも情報を出し続けていこうと思います。

働きやすい動物病院の情報は求人票だけではわからない

西川：動物看護師の専門学校学生の就活方法について、現在はどのようにして決定されているのでしょうか。

横田：各専門学校には就職担当の先生が居ます。学生は、通



愛玩動物看護師法を国会で可決させたスリーエンジェルの1人、JVNAの横田淳子会長

常採用では動物病院からの求人票を見て、見学実習に行き、試験・面接を経て決まってくるという形です。専門学校はこれから3年制になりますので、21歳で就活することになりますが、21歳の本人任せではどの動物病院に就職したら良いのかをなかなか決められないのではないかと思います。

そこで、どのような観点から動物病院を選べば良いのかを専門学校の就職担当の先生もきちんと把握してしっかりとマッチングをしていく方が良いのではないかと思います。そして求人票だけではわからない動物病院の情報を吸い上げて学生にいかにつまみ取っていくのがこれからの課題になっていくものと思われま。

西川：早期退職してしまう原因は、就活時のミスマッチが引き起こしています。ホームページや求人票に書かれた情報はあるのですが、どの動物病院が長く勤務できる病院なのかは学生には分かりません。

これまでに獣医科大学の多くの学生にインタビューして分かったことは、「院長の経営姿勢を見ることの重要性」です。これはホームページや直接訪問でもなかなか分からないので、「入って見たらこんなはずじゃなかった」と早期に辞めてしまいます。

横田：最近では、この動物病院業界でも人材紹介による就活が増えてきています。人材紹介会社を通した場合、動物病院と本人とのマッチングが求人票のみで行われているのか、また違った方法なのか、どのようにされているかが分かりません。

自分が働きやすい動物病院はどんな病院なのか、長く勤務できる病院を探すには就活で何を重視して判断すれば良いのかなどの情報は求人票だけでは見つけづらいのが現状であると思います。

西川：動物看護師が国家資格化されても、この就活時のミスマッチが原因で早期退職していくようでは国家資格化した意味がありません。

横田：国家資格化されたことが「まずは良かった」と動物看護師の方々に捉えられるためには、①処遇が改善されること、②勤続年数が長くなることといった結果に結びつかなければなりません。日本動物看護職協会としては、勤続10年は目指したいと考えています。

この2点が改善していかないと現職で働いている動物看護師は働きながら苦勞して勉強して第1回目の国家試験を受けたわけで、合格者には愛玩動物看護師として国家資格を持つことのメリットを感じて頂きたいと思っています。

学生数は急に増えないので、復職させる仕組みが人材不足解決につながる

西川：現在の動物病院の人材不足解決のためには、動物看護学生がこれからどうなっていくのかに大きな期待があるのですが、この点についてのお考えをお聞かせ下さい。

横田：国家資格になったことで、専門学校や大学の新規参加が増えていくことで将来的には動物病院のニーズに応えられるようになっていくものと期待しています。

ただ現在の人手不足については、学生数は増えませんので、

一度辞めた人を復職させるような仕組みを作ることが必要な時代がきているのではないかと思います。

例えば、パート勤務のような、他業界では当たり前にある働き方です。国家資格を持ち、スキルやキャリアがあっても結婚や出産で辞めてしまうのはあまりに勿体無いことです。パート勤務ができれば、続けて10年勤務は難しくても、生涯を通じて動物看護師として働く時間を伸ばすことができると思っています。

西川：この職場復帰ですが、「獣医療技術が進歩していますので、一旦臨床現場から離れてしまうとついていけないので怖くて戻れない」との多くの女性獣医師の意見があります。動物看護師の場合、このような職場復帰しにくい障害はあるのでしょうか。

横田：この点は、獣医師も動物看護師も同じではないかと思っています。獣医療技術は日進月歩で、検査も薬も変わってしまっています。この点については獣医療器械メーカーさんのサポートや大学・専門学校の教育に復帰するためのカリキュラム等を設けて頂くなどのサポートがあれば戻りやすくなるのではないかと思います。

そして国家資格を取られた愛玩動物看護師の方々に申し上げたいのは、国家資格は専門職能ですから、これからは動物病院の売上を考えて日々の勤務をしなければなりません。病院経営に積極的に関わりを持っていくことをこの合格によって意識するように努めて頂きたいと思っています。

西川：本日は貴重なご意見を有難うございます。



一般社団法人 **日本動物看護職協会**
Japanese Veterinary Nursing Association

日本で **唯一!** **動物看護職** のための **職能団体**



JVNA日本動物看護職協会の活動を紹介したYoutube映像へのアクセスはこのQRコードを読み取ってご覧ください

2023JBVP 年次大会での講演案内

日	時間	講師	内容
9/23 (土)	13:40 ~ 14:50	西川 芳彦 事業承継 コンサルタント	客単価アップによる持続的成長経営を可能にするための院長・全スタッフの意識改革
9/24 (日)	15:10 ~ 16:20	西川 望 動物病院HR コンサルタント	300人以上の獣医科学生面談・就活実習ツアー300件から見えてきた新卒採用活動の問題点と対策